

漁業者が取り組む着底基質を用いたアサリ種苗の採集技術

成果の概要

- ・ 稚貝着底基質を干潟に設置し、適正に管理することで「**大量のアサリ稚貝**」を採集できるとわかりました。
- ・ H24年度に伊勢湾内の干潟に設置した着底基質から、一年後一袋あたり平均**1.3kg, 750個**のアサリ稚貝を採集することができました。
- ・ 県内のいくつかの漁協で、この技術を用いてアサリ稚貝の採集に取り組んでいます。



漁業者による着底基質の設置

着底基質の特徴

- ・ 稚貝着底基質とはカキ殻の粉末を粒状に固形化したものです。
- ・ その着底基質と砂利をそれぞれ重量比で1:4の割合で、網袋(目合い4^{ミリ}, 5kg入り)に入れ、干潟に設置します。



着底基質に定着したアサリ稚貝の採集

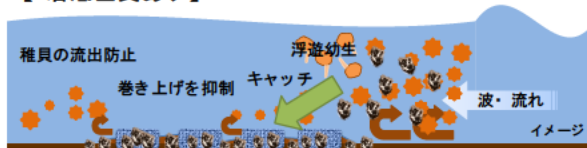
着底基質の設置と管理

- ・ 網袋が埋没すると、着底稚貝が死んでしまうため、潮間帯上部(DL+1.0~+0.5m)のできるだけ埋没しない場所に設置することが望ましいです。
- ・ 網袋が埋没してしまわないよう、網袋の状況を確認し、定期的にメンテナンスする必要があります。
- ・ 定着したアサリ稚貝は、殻長が20^{ミリ}を超えると死亡が増えるため、網袋内で殻長20^{ミリ}程度になったら、袋から取り出す必要があります。

【着底基質なし】



【着底基質あり】



着底基質へのアサリ稚貝の定着イメージ



三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

Mie Prefecture Fisheries Research Institute

〒510-0243 鈴鹿市白子1丁目6277-4

TEL (059)386-0163

FAX(059)386-5812